令和2年度　大田区立矢口中学校　自己評価　報告書

令和3年3月12日

○　本校の概要

○通常学級15学級、特別支援学級1学級の規模である。
○各教室に電子黒板が設置され、授業でICTを活用している。
○仲間力をキーワードに、行事や学級での活動で生徒同士の認め合いの大切さを強調している。
○地域と連携したキャリア教育の推進と地域等へのボランティアを行っている。
○スクールサポート矢中が様々な教育活動の支援をしている。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

生徒回答数463名

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	学校生活アンケートで「将来について考える学習が楽しみだ」との問いに肯定的な回答をした生徒の割合（258人、57%）	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	1	・外国語指導教員の来校日には、各学級日替わりで給食を生徒と共にとり、昼休みにかけて英語カフェを開き、生徒とのコミュニケーションに努めている。 ・教員に一台ずつ割り当てられたタブレット端末や各教室に設置された電子黒板・書画カメラの稼働率は高いが、生徒用タブレットの稼働率が低い。次年度は全生徒にタブレットが配られ、個別学習や家庭学習等での活用ができるようになる。 ・昨年度発表したキャリア教育に関わる研究成果を活用してキャリア教育を進めている。	A B C D	6 4 0 0	・「将来を考える」というテーマは、特に今年のような世の中が不安定な時は前向きに考えにくい状況だったかもしれませんが、回答率が上がるようなさらなる取組を期待しています。 ・区内の中学生には、6月頃に全生徒にタブレットが配られると聞いています。効果的な活用となるよう期待しています。 ・全生徒へのタブレット配布は結構と思いますが、それを使用できる環境（家庭）が全生徒に整っているか否か、やや心配な気もします。 ・今年度はコロナ禍のため活動が制限される部分も多くあったと思うが、今後社会が大きく変化していくと言われる中、コミュニケーション能力、情報活用能力等、これからの社会の変化に対応できる生徒の育成に努めていただきたい。 ・生徒用タブレットは、台数が少なかったことも原因と考えられ、次年度の期待度は高い。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3							
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4							
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4							
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3							
		キャリア教育における基礎的汎用的能力の育成のために、指導方法や教材を工夫した授業を実践している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%未満であった。	3							
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	学校生活アンケートで「集中して授業に取り組んでいる」との問いに「とても思う」と回答した生徒の割合（103人、22%）	4:60%以上 3:50%以上 2:40%以上 1:40%未満	1	・放課後補習教室（英語・数学）を、水曜日と木曜日に行い、学習指導講師が英語・数学の質問に答える形で、基礎基本の定着に取り組んでいる。 ・定期考査前には、土曜補習（ぐんぐん）教室を年6回行い、各教員と学習指導講師、地域ボランティアの方々が連携して生徒の学習支援にあたっている。 ・今年度は、感染症対策のため小中一貫教育の会は実施できなかったが、児童生徒の生命にかかわる重大事故防止に向けた情報交換を行っている。	A B C D	6 4 0 0	・「思う」まで含めると80%程度だと思うので、ある程度達成できていると思います。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3							
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4							
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3							
		小中の各教科の指導内容について共通理解を図り、小中一貫した学習指導を推進する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%以下の教員が働きかけた。	2							
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	学校生活アンケートで「学校の決まりをきちんと守って生活している」との問いに「とても思う」と回答した生徒の割合（171人、37%）	4:70%以上 3:60%以上 2:50%以上 1:50%未満	1	・小中一貫教育の会は実施できなかったが、関係小学校との連携を密にし、生活指導・特別活動・特別支援教育の分科会を中心に、規範意識の向上について、意見交換や情報共有に努めている。 ・いじめや不登校、問題行動については、週1回の生活指導部会で各学年代表や養護教諭から報告があり、会議録を生活指導主任がまとめて配信することで、全教員が情報を共有できる。 ・養護教諭や養護教諭補助、スクールカウンセラーとの連携で、不登校生徒への対応やメンタル面で不安のある生徒へのケアがきめ細かにできている。 ・道徳教育推進教師が校外での研修会や指導教諭による授業公開に参加し、得られた情報を校内研修や職員会議を通じて全教員で共有することができた。 ・次年度からのサポートルーム開設に向けて準備を進めている。 ・今年度から「特別な教科道徳」となり、年度末に評価を行っている。	A B C D	7 3 0 0	・この設問も「思う」まで含めると89%になるので、ある程度達成できていると思います。 ・SCやSSWなどに相談できる生徒はよいですが、実際には一人で悩む子も多いと聞きます。発達障害の2次障害などで大人になっても苦しむ人に会っているのでカを入れて取り組んでいたあきたいと思います。 ・コロナ禍で制限のある生活が続く中で精神的なバランスを崩しやすい状態でもあると考えています。引き続きよろしくお願いします。 ・不登校の生徒への対応はなかなかご苦労が多いことでしょうが、落ちこぼれる生徒が一人でも少なくなるようよろしくお願いします。 ・小中一貫教育体制充実のためのご努力をよろしくお願いします。 ・質問1、2で、生徒・保護者ともに「登校が楽しみ」「学校生活に満足」と答えているのが多いことは評価できるが、「思わない」と答えた少数にもきちんと対応していただくようお願いします。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3							
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	3							
		生徒会活動、学校行事や部活動等を通して、生徒の自治的な力を育て、健全育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3							
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	学校生活アンケートで「自分の体力づくりや健康に気を付けて生活している」との問いに肯定的な回答をした生徒の割合（331人、70%）	4:60%以上 3:50%以上 2:40%以上 1:40%未満	4	・体育授業が始まる前（休み時間）に、必ずランニングを行い、チャイムと同時に準備運動に入ることが「一校一取組」となっており、体力向上に努めている。 ・部活動は全教員が顧問となり、生徒の体力向上や健全育成に取り組んでいる。 ・感染症対策のため、矢中祭運動部門が中止となり、体力向上の取り組みが十分に行えなかった。	A B C D	10 0 0 0	・コロナ禍において、矢中祭運動部門が中止となったことは大きいが、生徒の安全を第一に考え、できる範囲での取り組みはされていたと思う。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3							
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3							
		体力向上を目指し、体育的行事、部活動、連合行事等に、全教員で組織的に取り組む。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	2							
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	学校生活アンケートで「先生は分かりやすく工夫した授業を行っている」との問いに「とても思う」と回答した生徒の割合（126人、27%）	4:60%以上 3:50%以上 2:40%以上 1:40%未満	1	・年3回の土曜学校公開（授業公開日）に実施する授業アンケートの内容は、全教員で回覧することで授業改善に役立てている。 ・学校支援地域本部（スクサポ矢中）の活動として、特に土曜補習教室での学習支援、英語検定の二次面接に向けた模擬練習では、地域ボランティアの方々の協力により子どもたちが大変お世話になっている。	A B C D	5 4 1 0	・「思う」を含めると77%なので、スクールサポーターの方も積極的に取り組めていると思います。 ・授業のより一層の充実のために、先生方の授業対応の時間確保をよろしくお願いします。 ・
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3							
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3							
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4							
		学校支援地域本部「スクールサポート矢中」の活動を充実させ、外部人材を活用した学習活動を推進する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4							
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	学校生活アンケートで「地域行事やボランティア活動に参加したいと思っている」との問いに肯定的な回答をした生徒の割合（247人、53%）	4:70%以上 3:60%以上 2:50%以上 1:50%未満	2	・月1回「学校だより（矢中の窓）」を発行し、同時にホームページの更新を行うことで、教育活動について最新の情報を保護者・地域に発信している。 ・学校支援地域本部（スクサポ矢中）の活動として、学校図書ボランティア、土曜補習教室での学習支援、英語検定の二次面接に向けた模擬練習、三味線・書道教室、フラワーレンジャーなど、多方面で地域の方々のお世話になっている。 ・今年度は、感染症対策のため朝清掃（YVA）や多摩川清掃など、身近なボランティア活動が中止になり、生徒のボランティアマインドの醸成を図ることができなかった。	A B C D	6 4 0 0	・町会などと一緒にSDGsに取り組んだりできないかと思ったりしています。 ・この一年間に関しては、感染症対策のために活動自体が中止となっており、また各家庭の考え方なども重なり、本設問に関しては仕方ない部分もあると思います。 ・ここしばらくは全てコロナの状況如何でしょうが、生徒自身が地域社会の一員であるということを自覚する意味からも、ボランティアや地域の行事などに積極的に参加してほしいと思います。 ・
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3							
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3							
		生徒会のボランティア活動（YVA等）や地域活動など社会参加活動を積極的に推進し、ボランティアマインドの醸成を図る。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	1							

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。